



花見奉行，桜の樹を想う

TDKの大石さんからバトンを受け継ぎました富士通の水谷と申します。このエッセイの話をいただいたのが3月で、何の話にしようかと考えをめぐらせていましたら、テレビのニュースで桜前線が話題となっていました。開き始めた桜の花をバックに、樹のお医者さんという方が女性アナウンサーに「早く咲く樹は日照の問題もあるでしょうが、樹が病んでいる場合もあります。早く咲いて子孫を残そうとするのですね」と応答していました。そう聞いて、ふと会社がある厚木市森の里に繁茂する桜の樹の中で最初に咲く樹が毎年同じなのを思い出しました。あの樹は病気の可能性もあるのでしょうか。気になり、少し桜について調べてみました。このエッセイが「ぶんせき」に載るのは8月号と聞いており、全く季節感のない話になってしまうとは思いましたが、毎年咲く花のこと、来年の花の時期に何かお役に立つことがあればと早速家のPCに向かいました。こういう場合、学生の頃でしたら図書館や本屋へ行って専門書に書かれていることをまとめるという作業になるのですが、この頃ではついPCで検索、となってしまう。インターネットで調べることの面白さは、一つのことについて専門家や一般の人を問わず多くの人の意見が机に居ながらにして手に入るということにあるのではないのでしょうか。ただし、複数の意見や微妙に違う言い回しに対して、自分なりに解釈してまとめる必要はあります。

ともあれ、桜の樹について検索してみると、やはり数万件のヒットがあり、それぞれの立場からのいろいろな情報が得られました。総合すると、どうやら近所や公園でよく見かける桜はソメイヨシノであり、以下のような特徴があるそうです。・オオシマザクラとエドヒガン系



厚木研究所の庭にて、桜の花間から大山を望む

の品種コマツオトメとの交雑種である。・起源は伊豆半島説や韓国説などがあるが、最近のDNA解析から染井村説が有力視されている。・不稔^{ふねん}であり、結実能力がなく、実がなったとしても発芽するのはまれであるため人の手による接木や挿し木で増える。したがって、ソメイヨシノは一本の木からのクローンであり、周りにある桜は全てクローンとしての原木の性質を受け継ぐため、一斉に咲いて一斉に散る、というような景色が見られる。・2月1日を過ぎてからその日の最高気温の合計が600℃を超えると咲き始める。(多少の誤差はあるものの、この数字が高い精度で実証できているのは、桜前線のニュースなどでご存知の方も多いと思います。)・樹の寿命は、50年～100年。桜の根は地表近くを這うため、花見などで人が樹の下を踏み固めてしまうと根が傷ついてしまったり、クローンであるがゆえに病気にかかりやすく、手当てをしないうちから腐ってしまったり、と寿命が環境に大きく影響される。そのため、自治体によっては積極的に樹勢回復を行っているところがある。

このように調べていると、つい職業柄、桜はクローンであるがゆえに条件がそろると一斉に咲き始める、という様子はまるで一種の環境センサーのような気がしました。「今年は〇〇日頃開花」という開花宣言が、地球温暖化の影響が少しずつ早くなっているようですが、桜センサーはみごとにそれをあらわしていて、子供の頃は入学式の花であった桜が、自分が親になってみると卒業シーズンの花となりつつあります。地球の平均気温が〇〇℃上昇した、という数字と比べ、なんとわかりやすい情報でしょうか。春には桜、では他の季節は・・・と考え、これも気になって調べてみると、ありました。紅葉前線、初雪前線、うぐいすの初鳴き前線。桜ほど全国どこでも、というわけにはいかないようですが、目安となるものがそれぞれの季節にあります。地球環境の変化を知るには、やはり自然の変化が一番感度のいいセンサーということでしょうか。

さて、前述の会社にある一番早く咲く桜の樹ですが、庭師の人の話ですと、どうやら病気ではなかったようです。やはり日照条件が一番いい場所なのかなとほっとしつつ、なるべく根を傷つけないようにと少し離れた場所から仰ぎ見て今年も満開の桜を堪能しました。

今回は、仕事やテニス(?)、飲み会と多方面でお世話になっている産業技術総合研究所の津越さんにお願ひしました。多彩な話題に乞うご期待です。

〔富士通株式会社 水谷晶代〕